

主催：一般社団法人 日本毒性学会
後援：神戸市

第18回市民公開セミナー

健康長寿を 考える

— その病気、見逃していませんか？ —

2021年

7月10日 土

14:00～15:30 (開場 13:30)

会場 神戸芸術センター 〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通 7-1-13
TEL: 078-241-7477 (総合受付)

入場無料

《参加申込：不要》

※当日直接会場に
お越し下さい

プログラム

司会
ご挨拶

福井 英夫 [Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社]

講演1

「高齢者の目の病気」

西田 幸二 [大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学（眼科学）主任教授]

講演2

「最近増えてきた胃腸のアレルギー病」

木下 芳一 [姫路循環器病センター 院長・製鉄記念広畑病院 病院長
はりま姫路総合医療センター整備推進機構 理事長]

1. 会場内ではマスク等を必ずご着用ください。ご入場前に検温及び手指の消毒をお願いしております。なお、発熱など体調のすぐれないお客様のご入場をお断りする場合があります。
2. 公益財団法人 日本薬剤師研修センター受講シール(1単位)の対象となります。なお、受講シール付与には薬剤師免許番号のご提示が必須となります。

お問い合わせ先

第48回日本毒性学会学術年会 年会事務局
〒251-0012 神奈川県藤沢市村岡東二丁目26番地1 Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社
事務局長：大塚 博比古 事務局次長：吉田 唯真・林 良太 E-mail: secretariat@jsot2021.jp

講演1

高齢者の目の病気

にしだ こうじ

西田 幸二 先生（大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学（眼科学）主任教授）

現 職 大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学(眼科学)・主任教授
大阪大学医学部附属病院AI医療センター長
大阪大学先導的学際研究機構生命医科学融合フロンティア研究部門 部門長

略歴

昭和63年	大阪大学医学部卒業
昭和63年	大阪大学医学部附属病院 医員
平成元年	大阪厚生年金病院 医員
平成4年	京都府立医科大学 助手
平成10年	ソーク研究所（米国、サンディエゴ） 研究員
平成12年	大阪大学大学院医学系研究科 助手
平成13年	大阪大学大学院医学系研究科 講師
平成16年	大阪大学大学院医学系研究科 助教授
平成18年	東北大学大学院医学系研究科 主任教授
平成22年	大阪大学大学院医学系研究科 主任教授 現在に至る

賞 罰

平成9年1月	第2回ロート賞 受賞
平成10年4月	日本眼科学会 学術奨励賞 受賞
平成17年2月	Alcon Award 受賞
平成18年10月	第2回Pfizer Ophthalmic Award Japan 受賞
平成21年4月	平成21年度文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門 受賞
平成29年3月	日本再生医療学会賞 受賞

主な役職歴

平成15年～現在	日本眼科学会 評議員
平成19年～平成22年	東北大学トランスレーショナルリサーチセンター 副センター長
平成22年～平成27年	大阪大学医学部附属病院未来医療開発部データセンター センター長
平成23年～現在	日本眼科学会 理事
平成24年～平成28年	大阪大学大学院医学系研究科 研究科長補佐
平成25年～平成27年	大阪大学 理事補佐
平成25年～平成27年	日本角膜学会 理事長
平成26年～平成27年	大阪大学大学院医学系研究科附属 最先端医療イノベーションセンター センター長
平成26年～現在	日本角膜移植学会 理事長
平成27年～令和2年	大阪大学医学部附属病院未来医療開発部 部長
平成29年～平成31年	大阪大学大学院医学系研究科 副研究科長
平成29年～現在	大阪大学先導的学際研究機構生命医科学融合フロンティア研究部門 部門長
平成30年～令和2年	日本コンタクトレンズ学会 理事長
平成31年～令和3年	大阪大学大学院医学系研究科 研究科長補佐
平成31年～現在	大阪大学医学部附属病院AI医療センター長
令和3年～現在	大阪大学大学院医学系研究科 筆頭副研究科長
令和3年～現在	大阪大学先導的学際研究機構 副機構長

講演2

最近増えてきた胃腸のアレルギー病

きのした よしかず

木下 芳一 先生（兵庫県立姫路循環病センター / 製鉄記念広畑病院）

多くの方は、食べ物を食べたのちに腹痛や下痢、嘔吐が起こって困られた経験があると思います。このような困った現象をまとめて「食あたり」と呼んだりします。みなさんは食あたりがどうして起こるかご存じですか？

食あたりの原因としては、毒キノコのように食材自身に食べるといういろいろな害を起こす毒物がふくまれている場合があります。フグの卵巣やジャガイモの芽などもこの種類の食あたりと言えます。また、食材の中で微生物が増えて、もともとは食材の中には毒物はなかったのですが微生物が毒物を作ってしまう場合があります。昔、お手製のジャムや酎ずして問題になったボツリヌス菌の毒素中毒やブドウ球菌の毒素による食中毒がこれになります。これに似たものに食材についた微生物が体内に食物と一緒に入り込み、腸の中で増えて腸の組織の中に侵入して害をおこす赤痢や腸チフス菌による感染症も食あたりと言えます。しかし、最近これらの食物毒や微生物の作る毒素以外にも食あたりが起こることが多くなり注目されています。

食べ物に毒物が含まれていなくて、細菌などの微生物が付着していなくても、食べた人が食べた食材に「アレルギー」反応を起こせば腹痛、下痢、嘔吐などの症状が起こってしまうのです。アレルギーとは体の外から体の中に入ってくるものに対して過剰な免疫反応がおこることをいいます。免疫とは体の中に細菌などの異物が侵入した時に、侵入した細菌などを殺すために働く仕組みで、病気を起こす微生物が体の中

に入って害を起こすのを防いでいます。私たちは食べ物を食べますので体の中に卵や牛乳のたんぱく質を取り込むわけですが、体の免疫の仕組みは卵や牛乳には反応しないように調整されています。この調整がうまくいかず、卵や牛乳などの食べ物の一部にも免疫の仕組みが強い反応を起こすようになったのがアレルギーです。卵を食べたら起こる卵アレルギー、牛乳を飲んだら起こる牛乳アレルギーなどいろいろな種類の食材で起こります。

食物アレルギーは子供に多い病気だと考えられてきましたが、最近では成人や高齢の方にも起こることが分かってきました。また、一般的な食物アレルギーは原因食材を食べて1時間以内に腹痛、下痢などのいろいろな症状が現れる急性の経過を示しますが、中には原因食材を食べてから1～2週間して症状が現れる、慢性的な経過を取る食物アレルギーもあることが分かってきました。

食あたりを起こさないようにするためには、良い新鮮な食材を選び、熱を加えて調理をすることが大切です。それに加えて、食あたりと思える腹痛や下痢、嘔吐をたびたび経験されたときには食物アレルギーかもしれないと気付いて、かかりつけの先生に相談していただくことも大切だと思います。そこで、本市民公開講座では食物アレルギーとはどのような病気を、最新の研究結果も含めてわかりやすく解説させていただきます。

略歴

昭和55年3月	神戸大学医学部卒業
昭和55年7月	神戸大学医学部附属病院内科研修医
昭和56年7月	宇和島市立病院内科 医員
昭和62年3月	神戸大学医学部大学院修了
昭和62年6月	米国ミネソタ州メイヨークリニックに留学
平成元年8月	三木市民病院消化器科 医長
平成4年7月	神戸大学医学部老年科 助手
平成6年9月	神戸大学医学部老年科 講師
平成9年9月	島根大学医学部消化器内科学 教授
平成19年10月	島根大学医学 部長（兼任、～21年9月）
平成24年4月	島根大学医学部附属病院 副院長（兼任、～30年3月）
平成31年4月	社会医療法人 製鉄記念広畑病院 病院長 （令和2年4月より兵庫県立姫路循環器病センター院長と兼任）
令和2年4月	兵庫県立姫路循環器病センター 院長

専門分野

消化器内科学、アレルギー学